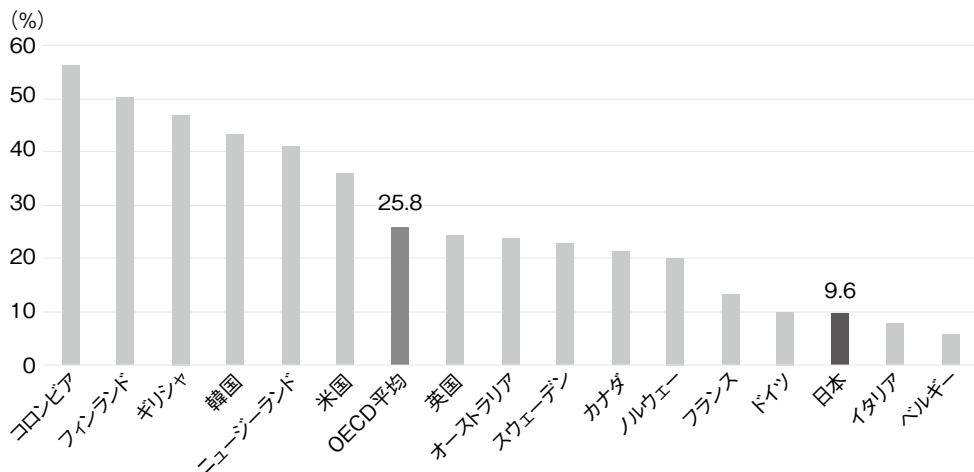


30 歳以上の「修士課程」入学者比率



世の中が目まぐるしく変化する昨今、生涯を通して学び続ける姿勢が求められる。リカレント教育、すなわち社会人の学び直しにも注目が集まるが、修士課程に新規に入学する学生のうち、30歳以上が占める割合は、OECD平均が25.8%であるのに対し、日本はわずか9.6%にとどまる。これはOECD加盟国の中でも最も低い水準である。文部科学省の「社会人の大学等の学び直しの実態把握に関する調査研究」によると、社会人の学び直しが定着しない理由として、費用が高い、勤務時間が長すぎて余裕がない等が挙がる。また、勤務先での評価につながらない、働きながら学べる環境にない、サポートしてくれる制度がない等、企業側の人材育成の課題も見えてくる。なお、保健（医学・歯学・薬学）分野での社会人学生の数は近年、増加傾向にある。

OECD「Education at a Glance 2021」より作図